

講演者・司会者のプロフィール

開会挨拶



寺澤 達也

(一財)日本エネルギー経済研究所 理事長
1984年通商産業省入省。

2011年9月-2012年内閣総理大臣(野田内閣)総理秘書官として東日本大震災の対応を補佐。経済産業政策局審議官、貿易経済協力局長、商務情報政策局長等を歴任。

2019年経済産業審議官。在職中行われたG20大阪サミットでは安倍晋三内閣のもと各国との調整において重要な役割を果たす。

2021年1月-6月内閣府本府参与として西村康稔経済財政政策担当大臣を補佐、新型コロナウイルス感染症対策や日本版グリーン・ニューディール等の成長戦略の策定に尽力。

2021年2月日本エネルギー経済研究所参与、7月より現職。

東京理科大学 上席特任教授(国際交流)。

東京大学法学部卒、ハーバード大学ビジネススクール MBA 取得。

Session 1



坂本 敏幸 司会(モデレーター)

(一財)日本エネルギー経済研究所 理事 環境ユニット担任

国際エネルギー機関(IEA)のエネルギー研究技術委員会(CERT)副議長・日本政府代表も務める。経済産業省に30年間勤務し、その間、主として国内外のエネルギー・地球環境問題の政策に携わった。退官後、二つの民間企業で働き、再生可能エネルギーや水素エネルギーのビジネスも経験。その後、2020年に日本エネルギー経済研究所に入所し現在に至る。工学修士(東京大学)及び経営管理学修士(米国ミシガン大学)。



仁木 栄氏

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)技術戦略研究センター
サステナブルエネルギーユニット長

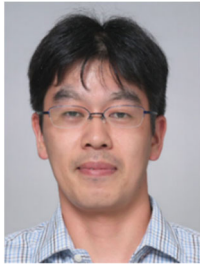
1991年3月、カリフォルニア大学サンディエゴ校 電気工学(応用物理学)博士号を取得。1991年4月、電子技術総合研究所に入所(2001年、統合・再編:国立研究開発法人産業技術総合研究所(AIST))。太陽電池の太陽光発電技術の研究開発 特にCuInGaSe₂に携わり、2013年4月、AIST太陽光発電工学研究センター長、2015年4月、AIST再生可能エネルギー研究センター長に就任。その後、太陽光発電技術に加えて、風力、地熱、水素運搬船などのさまざまな再生可能エネルギー技術に携わる。2019年2月、新エネルギー・産業技術総合開発機構 技術戦略研究センター 再生可能エネルギーユニット長に就任。2021年4月より、現職。



ジョン コテック 氏 (Mr. John Kotek)

米 原子力エネルギー協会 (NEI) 上級副会長

2017年よりNEIに入会。それ以前は米国エネルギー省で従事し、オバマ前大統領から原子力エネルギー担当次官補にも指名された。2010年から2012年まで、DOEが設置した「米国原子力の将来に関する有識者(ブルーリボン)委員会」の事務局長として、使用済み燃料と高レベル放射性廃棄物の処分対策に係る提言に携わった。2002年には、上院議員 Jeff Bingaman (D-NM)の下で、米原子力学会(ANS)の Glenn T. Seaborg Congressional Fellow を務める。1989年米国エネルギー省に入省後、1999年から2003年アルゴンヌ国立研究所の原子力技術課長を務めた。イリノイ大学で原子力工学の理学修士号、メリーランド大学でMBAを取得。



小林 良和 氏

化石エネルギー・国際協カユニット CCUS グループマネージャー 研究主幹

CCUS グループを率いる。国際的な石油・ガス業界で幅広い専門知識および研究経験を有し、東燃ゼネラル石油(現 ENEOS Corporation)では下流部門のアナリストとして従事した経験をもつ。IEEJ入所後は、アジアの石油・天然ガス市場、北東アジアのエネルギー安全保障、アジアのLNG市場開発に携わり、現在は化石燃料使用の脱炭素化について多くの研究を行っている。ジョンズホプキンス高等国際研究大学院(SAIS)国際経済学と関係学の修士号、一橋大学社会科学修士号を取得。

特別講演



保坂 伸 氏

経済産業省資源エネルギー庁長官

2020年7月より現職。長官として日本のエネルギー戦略、安定供給、電力・ガス取引、再生可能エネルギー、省エネルギー促進を統括する。長官以前は、貿易経済協力局長として貿易推進、技術協力、設備投資、貿易救済措置(アンチダンピング)に携わった。またその他エネルギー関連インフラの輸出政策、エネルギー政策に関する国際交渉を策定し、国内のエネルギー資源安定供給体制を確立するなど数多くの重要な役職を就任してきた。米国ミシガン大学留学、東京大学経済学部卒業。

Session 2



山下 ゆかり 司会 (モデレーター)

(一財) 日本エネルギー経済研究所 常務理事 計量分析ユニット担任
担任する計量分析ユニットは我が国のエネルギーミックスの議論に資する各種分析で貢献。毎年発表する IEEJ アウトルックはタイムリーな分析と気候変動の実践的アプローチで世界に知られる。国際エネルギー機関 (IEA)、APEC、ERIA、IPEEC など、エネルギー分野の国際協力で活躍し、国際会議等での講演・モデレーターの経験豊富。2020 年国際エネルギー経済学会 会長、2021 年 Executive Vice President を経て、2022 年同学会 Past President。



ハン・フーミン 氏 (Dr. Han Phoumin)

東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA) シニアエネルギーエコノミスト
国際的および政府間組織と学際的な研究コンソーシアムでエネルギー市場と技術、環境、統合水資源管理、ガバナンス、および経済開発に関連するさまざまなプロジェクトに従事。過去 12 年間は主に電力セクターを中心とし、特に電力市場の統合、廃棄物発電、持続可能な水力開発、再生可能エネルギー政策研究、エネルギー効率と省エネ、クリーンコールテクノロジー、エネルギー安全保障、ガスマスタープラン、エネルギー需要と供給の予測に取り組んできた。神戸大学 経済開発・政策 博士号を取得。応用計量経済学も専門としている。また、“Energy frontier”, “Energy Policy Journal”, “Energy Sustainability Journal”, “International Journal of Hydrogen Energy”等 数多くの国際ジャーナルのゲストエディターも務めている。



リーナ・スリバスタバ 氏 (Dr. Leena Srivastava)

喫 国際応用システム分析研究所 副所長
2012 年からニューデリーにある the TERI School of Advanced Studies (持続可能な開発に焦点を当てた学際的高等教育機関) で副総長を務めた。エネルギー資源研究所 (TERI) では、エネルギー、環境、気候変動政策の分野で、30 年以上の研究経験を有し、エグゼクティブディレクターとして約 9 年間務めた。ハイデラバード大学経済学修士号、インド科学研究所 (バンガロール) エネルギー経済学博士号を取得。



ディナ・アザガリエバ 氏 (Dr. Dina Azhgaliyeva)

アジア開発銀行研究所 (ADB) リサーチフェロー
2019 年 7 月、ADB 入所前は、シンガポール国立大学エネルギー研究所 エネルギー経済部 のリサーチフェローとして従事。レディング大学ヘンリービジネススクール (英国) のリサーチフェローとして、プロジェクト「Kazakh-British Centre for Competitiveness」に携わった。また、カザフスタン財務省税制調査会の主任および主任専門家として従事した経験がある。エネルギー政策、特に再生可能エネルギー、エネルギー効率、およびエネルギー貯蔵等の研究に焦点を当てている。この分野の論文が “Technological Forecasting and Social Change”, “Australasian Journal of Environmental Management”, “Journal of Environmental Management”, “Energy Policy and Journal of Sustainable Finance & Investment”等の国際ジャーナルに掲載。現在、“Applied Energy”の特集号“Integration of Renewable Energy in Energy Systems, Perspectives on Investment, Technology, and Policy”のゲストエディターも務めている。エセックス大学 (英国) 経済学 博士号・修士号を取得。Fellow of The Higher Education Academy、スタッフ教育開発協会のリサーチキャリアマネジメントの資格を保有。

Session 3



小山 堅 司会 (モデレーター)

(一財)日本エネルギー経済研究所 専務理事 首席研究員
2001年 英国ダンディ大学博士号取得。エネルギー動向分析室長、研究理事などを歴任。東京大学公共政策大学院客員教授、政府審議会委員等を多数務める。専門は国際石油・エネルギー情勢の分析、アジア・太平洋地域のエネルギー市場・政策動向の分析、エネルギー安全保障問題で、関連の著書・論文多数。2020年6月より現職。



ジョナサン・スターン 氏 (Prof. Jonathan Stern)

英 オックスフォード・エネルギー研究所 (OIES)
天然ガス・リサーチ・プログラム議長・特別リサーチフェロー
2003年にオックスフォードエネルギー研究所 (OIES) おいて天然ガスに関する調査研究プログラムを創設。2011年に議長、シニアリサーチフェローに就任。英国国立ダンディ大学とインペリアルカレッジ (ロンドン、英) の教授であり、Energy Delta Institute と日本エネルギー経済研究所のフェロー。



ケン・メドロック 氏 (Dr. Kenneth Medlock)

米 ライス大学ベーカー研究所 シニアダイレクター
2000年5月にライス大学で経済学の博士号を取得。同大学のエネルギー経済修士プログラムの共同ダイレクターであるとともに、同大学の経済学科及び社会環境工学科の兼任教授。IEEJの特別招聘研究員であり、コロラド鉱山大学 ペイン インスティテュートの諮問委員会メンバー。執筆多数、米連邦議会議事堂でも数多く証言するほか、OPEC 等 世界中で講演活動を多数行っている。学術賞受賞も多く、最近では 2019年 アブドゥラビンハマドアルティーヤ財団(ABHAIF)より "Lifetime Achievement Award for the Advancement of Education for Future Energy Leaders" を受賞している。アメリカ経済学会(AEA)、全米石油審議会 (NPC) の諮問委員メンバー。



貞森 恵祐 氏

仏 国際エネルギー機関 (IEA) エネルギー市場・安全保障局長
2012年10月、現職に就任。IEA 以前は、経済産業省官房審議官 (政策総合調整担当) を務め、IEA 理事会の日本政府代表、長期協力問題常設作業部会の共同議長として、IEA と長年に亘り関わってきた。また、2011年3月の福島第一原発事故対応に尽力し、内閣総理大臣秘書官、として数多くの重要なプロジェクトに携わってきた。

閉会挨拶



入江 一友

(一財)アジア太平洋エネルギー研究センター 代表理事・所長

1979 年通商産業省入省。1988 年米国ジョージタウン大学外交大学院修了。2002 年京都大学博士号取得。在オーストラリア大使館勤務を含めエネルギー・貿易分野の行政と、経済産業研究所等での政策企画・研究に主に携わる。2008 年経済産業研修所長を退官後、東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻教授を委嘱される。2012 年から日本エネルギー経済研究所の研究理事・アジア太平洋エネルギー研究センター研究部長、2018 年から常務理事・同センター所長を務め、同センターの独立に伴い 2020 年 4 月より現職。